

2015年 早稲田大学 政治経済学部 英語解答例

I 1 - b d g (nothing could be further from the) 2 - d 3 - e 4 - e
5 - c a d b 6 - b 7 - c

II 1 - d 2 - d e f (figure out how to clear up) 3 - a 4 - d 5 - a
6 - d 7 - a d c b

III 1 - b 2 - c 3 - e d b (half the number than their mothers)
4 - b a d c 5 - e 6 - c 7 - d 8 - d

IV 1 - c b e (a habit of getting things right) 2 - e
3 - a e d (can't be trusted to write everything) 4 - b

V I am against lowering the voting age in Japan, because it is doubtful whether the youth under twenty years of age have considerable insight as a citizen which is needed to join the political activities like voting. And we can deny the possibility that their ignorance, simple-mindedness or indifference about the domestic situation and the policies might be taken advantage of by the existing political parties. Thus, I can't agree with the idea of lowering the voting age.

※コメント 例年通りの出題形式である。長文中での並べ替え作文・文の並べ替えの問題をスピーディに解くことが鍵となる。文章そのものの難度は他学部と大きな差は見られない。問題Vで、時事的な問題について自説を展開できる作文力も問われている。

2015年 早稲田大学 政治経済学部 国語解答例

(一)

[出典]

甲：(古文) 『釣舟』途中、多くの省略がる。

乙：(漢文) A：『晋書』「列女」伝 B：李白「烏夜啼」

[解答]

甲

問一 A ニ G ロ 問二 B ハ E ロ I ニ 問三 イ
問四 会 問五 ハ 問六 ハ 問七 ニ 問八 ロ

乙

問九 イ 問十 上より下へ 問十一 ロ 問十二 ハ 問十三 ニ

(二)

[出典]

花田清輝『アヴァンギャルド芸術』「仮面の表情」の一節。一部省略がある。

[解答]

問十四 1 わいきよく 2 模索 問十五 ハ
問十六 確固とした表情をもつ仮面をかぶること(18字)
問十七 A ロ B ハ D ニ 問十八 ニ 問十九 ロ
問二十 ホ 問二十一 ロ 問二十二 イ

(三)

[出典]

舟木亨「パロール・エクリチュール・メール
ーデジタル・メディア時代における言語ー」
(『叢書【論理学のフロンティア】XII 表現の〈リミット〉』所収)

[解答]

問二十三 軍配
問二十四 時計＝腕時計の指令にしたがってふるまっている(17字)
ケータイ＝ケータイにぶらさがっている(13字)
問二十五 ロ 問二十六 ハ 問二十七 パロールに 問二十八 ハ
問二十九 ニ
問三十

メールでは、パロールなら表現される感情が表現されず、エクリチュールなら理解されるはずの論理や文脈が無視され、両者の関係が曖昧になっている。(69字)

[講評]

(一)が古漢融合問題、(二)・(三)が現代文の評論という形式は昨年度と同じ。ただし、(一)乙の漢文が昨年度は漢詩のみであったのが、今年度は文章と漢詩の二題になった。

(一)甲の古文は、長文であることと、入試ではほとんど出題されたことがない出典(早稲田の政経では、こうしたマイナーな評論系の文章がよく出題される。しかも、長文であることが多い)であることに戸惑った受験生がいたかもしれない。しかし、もともとが童形のために書かれた啓蒙的歌学書であるので、文章自体は読みやすいものであり、設問も基本的な知識と読解力を身につけていれば、十分対応できるものである。問一は和歌の修辞法の基礎知識が問われている。問三は文法問題。断定の助動詞「なり」の連用形「に」が用いられているイを選ぶ。問六はここで問われている「回文」とは、現代語の「回文」と同じく、「上から読んでも下から読んでも同じになる文」のこと。早稲田の政経ということで身構えて、変に難しく考えすぎなければ答えは明白だろう。問八はロとホで迷ったかもしれないが、ホの後半部分「決して一つの態度に固執しないことが大切である」が文末に矛盾していると見なす。

乙の漢文は、Aの文章については甲の古文の対応箇所を、Bの漢詩については乙のAの文章を踏まえているということを考慮すれば、おおまかな内容はつかめるはず。設問では、問十一、問十二が知識問題ではあるがやや難しい。

(二)は、文章自体は長めだが、趣旨をつかむのはそれほど難しくなく文章である。設問は問十八、問二十一が紛らわしい選択肢がり、やや難しい。

(三)は、キー・ワードになっている「パロール」と「エクリチュール」という概念を、メールに即して具体的にイメージできるかが理解の鍵だろう。問三十の記述問題はまさしくその点をたずねている。